



らむじ
ぬのた
けふこ
らてあ
めし
ま





霧

竹霧曉籠街嶺月頻風暗送る江春白

雖愁夕霧怪入枕猶愛朝雲出馬鞍

あきくらしに此柳のしづかにさくらさくらめれ
 えくらしにさこのやまのなみしきる
 ささくらしにのじりさるれからあきくらしの
 ささくらしのやまのなみしきるさくらさくら

擣衣

八月九月正長夜千聲萬聲無了時

白

深きア
 友別

後江相公

中星箭披旅鴈南樓月下擣寒衣
劉元叔
 擣處曉愁聞月冷裁將秋寄塞雲空
菅篤氏
 裁出還迷長短製邊愁定不肯腰圍
直幹
 風底香飛發袖舉月前杵怨兩眉低
後中書
 年別思鷓鴣秋鴈夜出聲不曉鷄
同上
 冬

初冬
 十月江南天氣好可憐冬景以春花
白
 誰家思婦秋擣帛月苦風淒砧杵悲
延喜御製
 四時零落三分減萬物蹉跎過半凋
菅三京
 床上卷收青竹葦篋中開出白綿衣
菅三京
 冬夜

やま けふ けふ けふ

一盞寒煙雲外夜
數盞溫酎雪中春
年光日向燈前重
思惟從枕上生

白
尊歌

歳暮

寒流帶月冷如鏡
夕吹和霜利似刀
流雲易向人前暮
新月難從老底還

白
良春道

けふ けふ けふ

かみかみ

爐火

黃醖綠醕迎冬熟
絳帳紅爐逐夜開
看無野馬聽鶯鶯
臘裏風先被火迎

白
此火

應鑽花村取對東
竹口有春情
他時縱醉鶯花下
近日那離獸炭邊

白
轉時

霜

霜

對影

三秋岸雪花初白三秋岸雪花初白
 一在林霜葉如紅一在林霜葉如紅
 萬物秋霜能壞色萬物秋霜能壞色
 四時冬日取凋年白四時冬日取凋年白
 困寒夢驚或添孤婦之礎上困寒夢驚或添孤婦之礎上
 山深感動乞山深感動乞
 侵四皓之鬢邊侵四皓之鬢邊
 君半夜深聲不警老翁年君半夜深聲不警老翁年
 晚鬢相斲管相承晚鬢相斲管相承
 揮已斷花亭鶴步揮已斷花亭鶴步
 初驚萬履人初驚萬履人
 晨積瓦溝鴛變色晨積瓦溝鴛變色
 夜零冰表鶴吞聲夜零冰表鶴吞聲
紀納言

若とて心しと孫そくくこさけいそそそ
 けいひしとけいそくくこさけいそそそ

雪

曉入梁王之苑雪滿群山曉入梁王之苑雪滿群山
 夜登庾公之樓夜登庾公之樓
 月明千里月明千里
 謝觀謝觀
 銀河沙漲三千界銀河沙漲三千界
 梅蕊花開一萬株梅蕊花開一萬株
 日日
 雪似鵝毛飛散亂人披鶴氅立徘徊雪似鵝毛飛散亂人披鶴氅立徘徊
 同同
 或逐風不返如振群鶴之毛或逐風不返如振群鶴之毛
 當晴於殘當晴於殘

河内

疑潑衆瓶之腋

紀納言

翔似得群栖浦鶴心應乘輿棹舟入

村上御製

立於庭上頭為鴛鴦坐在爐邊手不龜

管

班如園中秋扇色楚王臺上夜翠舞

舞

みやこはくくくくくくくくくくく

玉研

のやまふゆりけり

玉研

いれとじふとじふとじふとじふと

友別

東岸西岸之柳運速不同南枝小枝之梅

開落已異

保胤

紫塵嫩蕨人拳手碧玉寒蘆錐脫囊

野相公

氣霽風梳新柳髮水消浪洗舊苔鬚

都良香

庭增氣色晴砂綠林變容輝宿雪紅

紀納言

定也くくくくくくくくくくく

志貴守子

山凡くくくくくくくくくくく

山



こわくせむけはなんのさるねふさぎをこころ
 こころなまはしめしつゝ甲斐なやふらふら
 見ゆるしをたやあはれはくはくとこまきす
 みやうせむる乃にきさちるしひる
 春興
 玉面堂
 春風集

花下忘歸因美景樽前初醉是春風
白

野草芳菲紅錦地遊繚繚亂碧羅天
劉禹錫

歌酒家花處空管領上陽春
白

山桃復野桃日曝紅錦之幅門柳復岸柳
白

其
 已
 一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十



蓋志之所之謹獻少序云尔
 煙霞遠近應同户桃李淺深似勸盃
 水成巴字初三日源起周年後幾霜
 礙石遲來心竊待牽流過手先速
 桃
 夜雨偷濕曾波之眼新嬌曉風緩吹不言
 之唇先嘆

菅丞相
 菅馬茂
 菅推規

菅
 菅

紀納言



夕暮春
 柳花
 點隔樓
 鶯舌
 兩三聲
 元稹

暮春
 柳花
 點隔樓
 鶯舌
 兩三聲
 元稹

拂水
 柳花
 千方
 點隔樓
 鶯舌
 兩三聲
 元稹

低翅
 沙鷗
 潮落
 亂絲
 野馬
 草深
 春
 菅丞相

人無
 更少
 時須
 惜年
 不常
 春酒
 莫空
 小野篁

劉伯若
 知今日
 好應言
 此處
 不言
 何
 源順

夕暮春
 柳花
 點隔樓
 鶯舌
 兩三聲
 元稹



三月盡

留春不駐春歸人寂寞風不定風

起花蕭索

白

竹院君閑消永日花亭我醉送殘春

惆悵春歸留不得紫藤花下漸黄昏

送春不用動舟車唯別殘鶯與落絮

若使韶光知我意今宵旅宿在詩家

留春不用關城固
花房隨風鳥入雲
草敬

くふれそとまふんおんおつし
くふれそとまふんおんおつし
くふれそとまふんおんおつし
くふれそとまふんおんおつし
くふれそとまふんおんおつし
くふれそとまふんおんおつし
くふれそとまふんおんおつし
くふれそとまふんおんおつし
くふれそとまふんおんおつし
くふれそとまふんおんおつし

閏三月

今年閏在春三月
剩看金陵一
月花
陸侍郎
歸谿
詩
鶯更逗
留於孤
雲之路
醉林舞
蝶

還翻翻於一月之花

源順

花悔歸根無益
悔鳥期入谷
定延期

滋藤

人々々々々々々々々々々々々々々々

伊勢

鷺

鷺既鳴忠臣
待旦鶯未出
遺賢在谷

賈為

孤家碧樹鶯啼
而羅幕於垂
幾處花堂夢

覺而珠簾未卷

謝觀

咽霧山鶯啼尚少穿沙蘆笋葉終分元模
 臺頭有酒寫呼客人面無塵風洗池白
 鶯聲誘引來新下草色拘留坐人邊白
 感同類於相求離鴻去存之應春轉念異
 氣而終混就吟魚躍之伴曉啼菅三品
 燕姬之袖暫收猜繚亂於舊拍周郎之簪
 頻動碩間關於新花同

新鏡如今穿存雪舊巢為後屬春電菅丞相
 西樓月滿花間曲中殿燈殘竹裏音菅三品
 霞
 霞光曙後殷於火草色晴來嬾似煙白居易

霞光曙後殷於火草色晴來嬾似煙白居易

鑽沙草只三分許跨樹霞繞半段餘

菅丞相

かきめさうりうりうりうりうりうり
かきめさうりうりうりうりうりうり
かきめさうりうりうりうりうりうり
かきめさうりうりうりうりうりうり
かきめさうりうりうりうりうりうり
かきめさうりうりうりうりうりうり
かきめさうりうりうりうりうりうり
かきめさうりうりうりうりうりうり
かきめさうりうりうりうりうりうり
かきめさうりうりうりうりうりうり

雨

或垂花下潛增墨子之悲時舞鬢間暗動

藩郎之思

都在中

長樂鐘聲花外有龍池柳色雨中深

李嬌

寄得自為花父母洗來寧辨染君臣

紀納言

花新開日初陽潤鳥老歸時薄暮陰

菅三品

斜脚暖風先扇處暗聲朝日未晴程

保胤

わさくらさくらさくらさくらさくらさくら
わさくらさくらさくらさくらさくらさくら
わさくらさくらさくらさくらさくらさくら
わさくらさくらさくらさくらさくらさくら
わさくらさくらさくらさくらさくらさくら
わさくらさくらさくらさくらさくらさくら
わさくらさくらさくらさくらさくらさくら
わさくらさくらさくらさくらさくらさくら
わさくらさくらさくらさくらさくらさくら
わさくらさくらさくらさくらさくらさくら

梅付紅梅

伊能

九
智
智
九
智
九
智

白片落梅浮澗水
 黃梅新柳出城墻
 梅家帶雪飛琴上
 柳色和煙入酒中
 漸薰臘雪新封裏
 偷綻春風未扇先
 青絲絲出陶門柳
 白玉裝成庾嶺梅
 五嶺蒼蒼雲往來
 但憐大庾萬株春
 誰言春色從東到
 溪暖南枝花如開

白居易
章孝標
後江相公
詩
菅三郎
安倍廣庭

九
智
智
九
智
九
智

九
智
智
九
智





梅含雞古兼紅氣江弄瓊案帶碧文

梅含雞古兼紅氣江弄瓊案帶碧文
 紅梅
 梅のりふ
 梅のりふ

紅梅

梅含雞古兼紅氣江弄瓊案帶碧文
六六 フクナキ ケツラ カマダリ コウキョウ 六 モチカシキ ケイウラ フクナキ ケツラ フクナキ

浅紅鮮妍仙方之雪
浅 コウラ 鮮 ケツリセ 妍 ケツリセ 仙 ハウラ 方 之 雪

之煙讓薰
之 ケツリセ 煙 ケツリセ 讓 ケツリセ 薰 ケツリセ

有色易分殘雪底無情難辨夕向中
有 アリイロ 色 ヤシ 易 ヤシ 分 カシ 殘 セツノ 雪 ソコ 底 ナク 情 カシ 難 カシ 辨 ヤシ 夕 ヲノ 向 ナカ 中

橋正通
橋正通

仙日風生空
皴雪野
爐火暖
未揚煙
紀齊名

夕陽紅似
燒空
雪野
爐火
暖未揚煙
紀齊名

夕陽紅似
燒空
雪野
爐火
暖未揚煙
紀齊名

柳五葉山年數年華華文文海

林鶯何處
吟箏柱
牆柳
乍家
曝翅
塵白

漸欲拂
他騎馬
未多
遮得
上樓人
白

巫女廟
花紅似
粉昭
君村
柳翠
於眉
絕句詩

律知
老去
風情
少見
此
爭世
一句
詩
白

大庾嶺
之
毒
早
漆
誰
向
粉粧
匡
廬
山
之
杏
紀齊名

未開
豈
趁
紅
艷
紀齊名

雲
擎
紅
鏡
妝
柔
日
春
媚
黃
珠
嫩
柳
風
田達音

愁
宅
迎
曉
庭
月
暗
陸
地
逐
日
紅
煙
深
後中書王

潭
山
月
泛
交
枝
桂
岸
口
風
來
混
葉
嶺
管三品

あそやそそれ
あそやそそれ
あそやそそれ
あそやそそれ
紀齊名

しるふとれはきくはし物しるふとれ
いしるふとれはきくはし物しるふとれ
いしるふとれはきくはし物しるふとれ
いしるふとれはきくはし物しるふとれ
いしるふとれはきくはし物しるふとれ

多
少
幅

花明上苑輕軒馳九陌之塵猿叫空山斜
月瑩千巖之跡

長讀

池色溶々藍深人花光爛熳火燒春白
遙見人家花便入不論貴賤與秋殊白

白

瑩日紫風高低千顆萬珠之玉染夜染浪
表裏一入再入之紅

管三不

誰謂水無心濃艷臨兮波變色准淨花不
語輕漾激兮影動層

管三不

欲謂之夕則漢女施粉之鏡清瑩欲謂之
花亦蜀人灌文之錦繁爛

順

織自何絲唯暮雨裁無定樣任春風

管三不

花飛ぬ錦幾濃粧織者春風未疊箱源英明

始識春風機上巧非唯織色織分方同

眼貧蜀郡裁殘錦耳倦秦城調源相規

垂のふりにをりてさくらさくら此なることば

くふれこころのさくらさくらさくらさくら

さくらさくらさくらさくらさくらさくらさくら

落花山内千舞鶴江津染衣染衣

落花不語空辞树流人無心自入池白

朝踏落花相伴出暮随飞鸟一時歸同

春花面入關入酣暢之筵曉鶯聲源

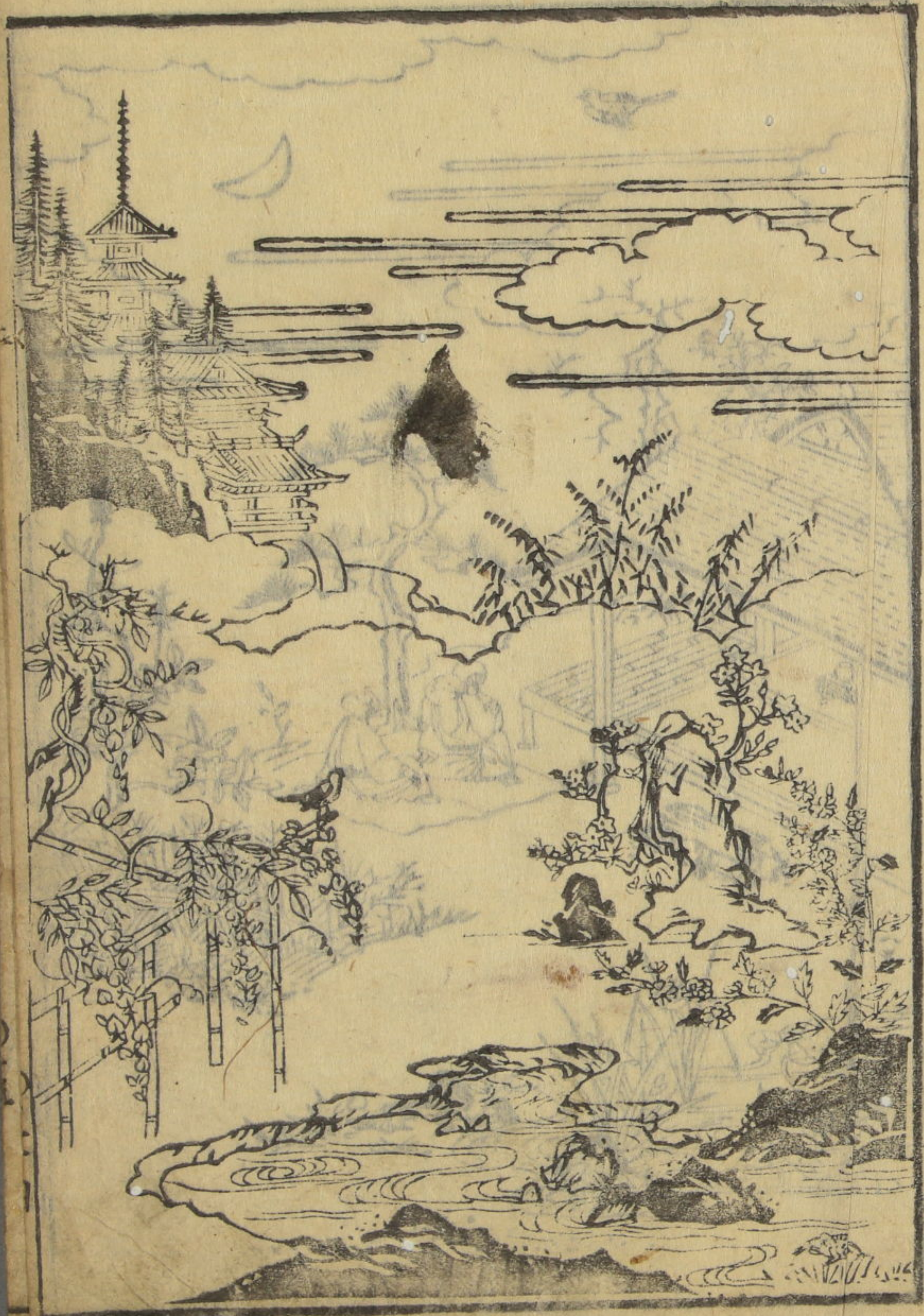
講誦之座源

落索狼藉風狂後啼鳥就鐘雨打時同

離閣鳳翅憑檻舞下樓娃袖顧階翻菅

さくらさくらさくらさくらさくらさくらさくら

菅



多分此酒をさうに飲つたらさういふ
 ことになりやうな思ふ人のいふ
 ことになりやうな思ふ人のいふ
 うつれふゆらのさういふこと

酒丸
 考

夏 息三白

更衣

背壁燈残経宿燭開箱衣帯隔年香白
 生衣欲待家人着宿釀當招邑老酣
 花の色にうめり枝北河文をれり
 こらもくさくさ身もふくさくさ

詩



首夏

甕頭竹葉經春熟階底蓄微入夏開白

客生石高輕衣短荷出池小蓋踈
物部安興

ワッ
順

夏夜

風吹枯木晴天雨月照平沙夏夜霜白

凡竹夜窻間卧月照松叶臺上行白

空夜窓閑螢度後深更竹白月明初

友の書とれわん何事おとらひし

わんけぬとやねんおとらひし

わんけぬとやねんおとらひし

端午

有時當戸危身立中意故園任脚行

わんけぬとやねんおとらひし

和基

きののやうくわんおとらひし

納涼

青苔地上消殘雨緑樹陰前逐晚涼

露簾清室迎夜滑風襟蕭涼之秋涼

不是禪房無熱到但能心靜即身涼

班婕妤團雪之扇代岸風兮長忘燕昭王

招涼之珠當沙月兮自得

匡衡

卧見新圖臨入障行吟古集納涼付管

池冷水無三伏夏松高風有一聲秋
源英明

すけやとくも付しんるらとれい
影洋

あふくふふいふ小秋しそか
中務

なつふきととと井のあはしあひ
五葉

晩夏

竹亭陰合偏夏夏水檻風涼不待秋
白

いふのうらみはれはふととせきれとととと
中務

花橋

盧橋子低山雨重柳樹葉戰水風涼
白

枝繫金鈴春雨後花薰紫麝凱凡程
後中書王

さつささうのしんるらとれい
例世

あはふふいふ小秋しそか
中務

蓮

風荷老葉蕭條綠
蘇殘花無
冥紅白

葉展影翻當初
月花開香散入
簾風白

煙開翠扇清風曉
水泛紅衣白
露秋 許渾

岸竹枝低應鳥宿
潭荷葉動是魚遊
紀在昌

緣何更寬吳山曲
便是吾君座下花
延喜御製

經為題自佛為眼
知汝花中植善根
源房憲

あらしの葉のほろろと
さびしきやうに
あらしの葉のほろろと
さびしきやうに

郭公

一聲山鳥曙雲外
萬點水螢秋草中
許渾

あしきやうに
あらしの葉のほろろと
さびしきやうに

あしきやうに
あらしの葉のほろろと
さびしきやうに

あしきやうに
あらしの葉のほろろと
さびしきやうに

あしきやうに
あらしの葉のほろろと
さびしきやうに

螢

あしきやうに
あらしの葉のほろろと
さびしきやうに

河野書院

螢火亂飛秋已近
 辰星早沒夜初長
 白
 兼葭水暗螢知夜
 楊柳風高鴈送秋
 謝渾
 明
 仍在詠
 追月
 光於屋上
 皓
 不消
 燈
 積雪片於床頭
 山經
 穿
 稟
 疑
 過
 汕
 海
 賦
 篇
 中
 似
 宿
 流
 此
 の
 人
 化
 細
 言
 橋
 直
 轉

大徳長

河野書院

大徳長





蟬

遲チ兮ク春ハ日ヒ玉タマ甃イ暖カ兮ク温オ泉ニ溢リ兮ク秋キ

風カゼ山ヤマ蟬セミ鳴ナリ兮ク宮ミヤ樹ツキ紅ベニ

千チ峯ホウ鳥ノ宿ス兮ク梅ウメ雨アメ五ゴ月ツキ蟬セミ聲コエ送ス麥ムギ秋キ

鳥トリ下オリ綠キナンド蕪ウ秦シ苑エン兮ク蟬セミ鳴ナリ兮ク葉エフ漢カン宮キウ秋アキ

今コト年トシ異ヘテ例レイ腸チウ先セン斷タン不ズ是シ蟬セミ怨ウレヒ客キヤク意イ悲ヒ

歲トシ去サリ兮ク來キタリ聽キケル不ズ變ヘテ莫ナシ言コト秋アキ後ノチ遂ス為ス空カラ

土

〇

紀納言

菅

許渾

李嘉祐

白

かひやよのさよひはこすん乃たつまれの
えににせせこ乃こまきこゆ
あけとあふ人ともうまおしひす
れとあひくひのまきさす

扇

盛夏不消雪終年無有風引秋生手裏藏

月入懷中

不期夜漏初兮後唯散秋風未到前

と川はさすすし寒るれ
あまきのをばなや

人丸

新巻

白

菅三品

中務

あふ北川はさす北をに寒るれ
そらぬすんもれかすの
きあつかにさす北風さす
たひの想とまきあひさる

秋

立秋

蕭颯凉風興衰鬢誰教計會一時秋

鷄漸散聞秋色少鯉常趨處晚聲微

秋あぬく色にハヤハッふく
うぬれとにそあくら行わ

尾平

才智

白

保胤

班年

しらけをよふぬを起しきもの葉を
けしきのけしきけしきけしきけしき

早秋

但喜暑随三伏去不知秋送二毛来白

槐花雨潤新秋地桐葉風涼欲夜天白

炎景刺残衣尚重晚凉潜到簟先知 紀家

あふきののろけいこくとけねとの孫や

七夕

安貞王

憶得少年長乞巧竹竿頭上願絲多白

二星適逢未叙別緒依依之恨五夜將明

秋驚涼風飒之聲 小野義材

露應別淚珠空流雲是殘粧髻未成 菅

風夜昨夜聲弥怨露及明朝淚不禁 後江相公

去衣曳浪霞應濕行燭浸流月欲銷 菅

詞託微波脈且遣意期片月欲為媒 菅輔昭



秋興

何ものほそとききしつらふ何れも
 子らんわつちをていさしにほれぬ
 心しせにひさかたおりの七夕の
 あひみそはほきしりるまふ
 といふにほかすれとるまふ
 わるまのつちつりけり
 の
 秋興
 林間 煖酒 燒紅葉 石上 題詩 拂綠苔 白
 楚患 眇澆雲 水冷 商聲 清脆 管絃 秋同
 大底 四時 心愁 苦就 中腸 斷是 秋天

秋興
 何ものほそとききしつらふ何れも
 子らんわつちをていさしにほれぬ
 心しせにひさかたおりの七夕の
 あひみそはほきしりるまふ
 といふにほかすれとるまふ
 わるまのつちつりけり
 の



物色モノイロ自堪傷ミ出意イ 恒將愁字作秋心トモモトモシキトシノココロ
ヤノシヤカラ 野相公

由来感思モトヨリカシヒ在秋天多被當時節物牽アキノトキニオホクハ 第イ

傷心イタヒココロ何處ナニトコロ取竹風鳴葉月明前チクフウノハラツキアキノキリ
ノノ 田連音

蜀茶シヤ漸忘シヅカニワスレ浮花味ウヅカハナノアジ 整練新傳ヒツクニシラタラ 倚雪聲ヨキユキノネ
ノノ 江相公

おまき乃らうハクセはけの下の海
 おまき乃らうハクセはけの下の海
 おまき乃らうハクセはけの下の海
 おまき乃らうハクセはけの下の海
 おまき乃らうハクセはけの下の海

秋晚

江相公
田連音

あまの
あまの
あまの
あまの
あまの

相思夕上松臺立
望山幽月猶藏影
秋夜長夜長無眠
影蕭々暗雨打窓聲
遲鐘漏初長夜
星河欲曙天白

大巻
九卷

あまの
あまの
あまの
あまの

鶯子樓中霜月夜秋來只為一人長
暮草露深人定後
兼葭州裏孤舟
秦甸之一千餘里
八月十五夜
水鋪漢水之三十

宮相
若見
守野
守野
守野

六宮漸リツクウ粉飾コノカサ
織錦機中已辨相思之字ヲシニミヤ擣衣砧上俄添ハヤシ
怨别之聲ウレシ
三五夜中新月色サニゴヤ二千里外故人心白ニチミ
高山表裏千重雪スラザン洛水高低兩顆珠スエリ同
十二運中世勝於此夕之好ドウニ十方里外各ジュウバウ
爭於吾家之光セウ
紀納言キナク

守野
守野

碧浪金波三五初ヘキナミ秋アキ計會ケイグエ似空虛自疑ニカララ
荷葉凝霜早人カハ道ミチ蘆花過雨餘岸白アサガハ還迷カエテ
松上鶴潭融可マツノカミ算藻中魚ハシ瑤池便是尋常ハシ
号此夜清明玉不カウ如ニ
金膏一滴秋風露カウ玉匣三更冷漢雲カウ
物貴地歸唐帝思モノ李夫人リフジン与深皇情サカヒ源順ゲンジュン
夕月ユフツキ乃成ナニ乃成ナニ
水ミヅ



賦

誰人隴外久征戎
ヒトノリノ
 何處庭前新別離
ナニノトコロノ

秋水漲來船去速
アキノミヅノ
 夜雲收盡月行遲
ヨノクモノ

不醉黔中爭在得
サカサカ
 摩圍山月正蒼白
マヱノ

天山不辨何年雪
テンサン
 合浦應迷清白珠
カフコウ

欲和豐嶺鐘聲否
ホクノ
 其奈花亭鶴警何
ナニノ

鄉淚數行征戎在
キョウノ
 停歌一曲釣漁翁
トウカ

白

郵展

白

三統理平

前中書

保胤



あふれぬをわたりさけぬればかたはれ
ふかしのやまたいづし月つと
あふれぬをわたりさけぬればかたはれ
あふれぬをわたりさけぬればかたはれ
あふれぬをわたりさけぬればかたはれ
あふれぬをわたりさけぬればかたはれ

あはれ伊丹

杉垣

あはれ伊丹

九日 付菊

燕知社日 辞巢去菊為重陽冒雨開

皇甫舟

採故事於漢武則赤吏捕宮人之衣尋舊

跡於紀文亦黄花助彭祖之術

紀納言

先三運兮吹其氣如曉星之轉河漢引十

分兮滿彩疑秋雲之迴洛川

谷水洗花汲下流而得上壽者三十餘家

地脉和味食日精駐年顏者五百箇歲同上

いく世とれくのくろくせくく

菊

霜蓬老鬢三分白露菊新花一半笑日

不是花中偏愛菊此菊開後更無花

嵐陰欲著契松栢之後凋秋景早後朝之

菊之先敗

鄜縣村間皆潤屋陶家兒子不垂堂

蘭蕙莞自慙為俗骨權羅不信有長生

蘭蕙莞嵐摧葉後蓬萊向月照霜中

あさりしはくものくろくせくく

三十一

紀綱言

三善清行

保胤

菅三郎

紀綱

ちりほりゆきみららやみしほの
ゆるりゆきゆきゆるりゆきゆきの
ゆるりゆきゆきゆるりゆきゆきの

九月盡

縦以嶠函為因難留蒲瑟於雲衢

貫而退何速爽穎於風境

頭自孤隨禪安乞以秋施與太應難

文峯按轡白駒景河海曦舟紅葉聲

やまけりひり秋しけれかうつらつら

ゆきのゆるりゆきゆるりゆきゆるりゆきの

恒

順

同

以言

子

ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

女郎花

花色如蒸栗俗呼為女郎聞名戲欲契偕

老恐惡兼翁首似霜

おひらきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

萩

性

昭

順

子

曉露鹿鳴花始發百般攀折一時情
菅

秋のふけさかふとのこなりんあま
人丸

わさやゆきとせのくくけてし思
伊丸

うけらるる心しほにおしにけさば
えん

おわらるるしほけつせふ
えん

あま此のまにまののりまふちま
えん

志りのしほけつせふ
えん

前頭更有蕭條物老菊兼蘭三兩葉白
扶桑豈無影乎浮雲掩而忽昏蔽尚豈不

扶桑ササキ豈ア無カ影ケ乎ス浮ウ雲ネ掩テ而シ忽チ昏ク蔽ル尚モ豈シ不シ

芳乎秋風吹而先敗
前中書呈

凝如漢女顏施粉滴似鮫人眼泣珠
都良香

曲驚楚客秋絃緩夏斷燕姬曉枕薰
直轄

わさるる心しほけつせふ
えん

くわらるる心しほけつせふ
えん

槿

松樹千年竹是朽槿花一日自為榮白

来而不留薤薤有拂晨之露去而不返槿

来キ而シテ不シ留ル薤シ薤シ有リ拂ス晨ノ露ヲ去リ而シテ不シ返ル槿ノ

大漣

た馬

品身

多見

為

離無投暮之花

おのつれもねるまのいりさ
のふりしむせわさくふのふ
りさくふとたにけりさ
りさくふとたにけりさ

前栽

多見栽花悦自侍先時豫養待開遊自吾

閑寂家僮俵春村春栽秋草秋

閑思看汝花紅日正是當吾鬢白年

王前中書

右侍中書

見

管

保

源九

卷源九



源九

送後園

春の
あはれ
を
かきたる



春のあはれを

曾非種處思元亮為是花時供世尊
 ちりもはるもふしやまよととまらぬ
 やまもろわゆるここのなりなのをれ
 必しとらわりのばそまふしうは乃
 とくにしといひくはこころとん

紅葉 付落葉

不堪紅葉青苔地又是涼風暮雨天
 黄纈纈林寒有葉碧瑠璃水淨無風
 洞中清淺瑠璃水庭之蕭疎錦浦林

管正相

三
恒子

白

同

保胤

外物獨醒松澗色餘波合力錦江聲
あつちあつちと志をいひしりや
しるしのあつちと志をいひしりや
しるしのあつちと志をいひしりや
しるしのあつちと志をいひしりや

落葉

三秋而宮漏正長空階雨滴萬里而鄉園
いづれに宮漏正長空階雨滴萬里而鄉園
いづれに宮漏正長空階雨滴萬里而鄉園
いづれに宮漏正長空階雨滴萬里而鄉園
いづれに宮漏正長空階雨滴萬里而鄉園

城柳宮槐漫搖落秋悲不到貴人
梧桐影中一聲之雨空溪鶴鷓背止數片
之紅縵殘
樵蕪往反杖穿朱賞臣之衣隱逸優遊履
踏葛稚仙之藥
隨嵐落葉合前悲澗石飛泉弄雅琴
逐秋光多吳苑月每朝聲少漢林風

後中書王

ふる川りみら葉かたるかつてふの
やまの秋風うきそよひの
神を月とくれとこらにうんるこれ
この葉のゆきしりすれ
いふ人もあつてまよふも
もつらんはまにこれにまこしきま

鴈 付 塚 石

萬里人南去三春鴈小怨不知何年月

興 沁 河 傳

尋陽江色潮添滿 彭蠡秋聲鴈引來

人 九

白

劉禹錫

四五 采山粧雨色 兩三行 為 秋 雲 秋

虛弓 殘 避 未 拋 疑 竹 上 弦 之 月 懸 奔 箭 易

迷 猶 成 誤 竹 下 流 之 水 急

鴈 飛 碧 落 書 青 依 隼 擊 霜 林 破 錦 機

碧 玉 粧 笋 斜 立 柱 青 咨 色 紙 數 行 書

雲 衣 范 竊 羈 中 贈 風 樽 菊 湘 浪 上 舟

秋 風 吹 送 帆 輕 帆 輕 帆 輕 帆 輕 帆

杜荀鶴

後江相公

田運音

管三

後中書王

友朋

歸鴈

世^セ腰^{ウシ}帰^キ存^{ゾク}斜^{カク}牽^{ヒキ}帶^ヲ水^ノ面^ニ新^ニ虹^ノ未^レ展^ビ巾^ヲ
都在

虫

切^キ暗^ク窓^ノ下^ニ噯^ム深^シ草^ノ裏^ニ秋^ノ天^ノ思^ヒ婦^ノ心^ヲ雨^ヲ

夜^ヨ幽^ユ人^ノ耳^ニ

霜^シ草^ノ欲^ク枯^ル出^テ思^ヒ苦^ク風^ノ枝^ニ未^レ定^ム鳥^ノ栖^ル終^ニ同

床^ト嫌^ハ短^ク脚^ヲ蚕^ノ聲^ヲ聞^ク壁^ノ狀^ノ空^ク心^ノ鼠^ノ孔^ヲ穿^ク

山^ノ館^ノ雨^ノ時^ノ鳴^ク野^ノ亭^ノ風^ノ處^ニ織^ル於^テ寒^シ

聚^ル邊^ニ怨^ム遠^ク風^ノ閉^リ暗^ク壁^ノ底^ニ吟^ム出^テ月^ノ色^ヲ寒^シ

いよよ心しるもれしのせん心秋のぢい
けりくけりけりけりけりけりけりけり
まうまうまうまうまうまうまうまう

鹿

蒼^{アヲ}苔^ノ路^ヲ滑^ク僧^ノ歸^ル寺^ニ紅^ク葉^ノ聲^ヲ乾^ク麻^ノ在^リ林^ノ

白

いらは
いはいへ
とちり
ぬるを
ゆかよ
たれ
つね

暗遣食草身色變更随加草德風来 紀綱言

よみれを想つた紫のやうにすし
ゆふつとよとくは山に多くあつ
しとのしりやけりふはあつとむ

露

可憐九月初三夜露似真珠月似弓白

露滴蘭葉寒主白風術松葉雅琴清 源英明

つねにこころをくたけり 源英明